

着衣状態は、昨年と同様の方法で、着衣指数を使用し、算出し、変動の要因として考えられる、月(季節)・年齢・温感・生理的身体条件・生活習慣の5項目について検討した。

3. 以上の調査結果を小括すると次のようである。(1) 県庁内の環境条件は年間を通じて、ほぼ快感帯にある。(2)着衣指数は男女とも月(季節)によって最も変動する。(3)男女の着衣指数を比較すると男は女より年間を通じて1.2~1.6倍着衣指数は多い。(4)年齢と着衣指数の関係は男女ともに高年齢ほど着衣指数は多くなり、特に冬季は1%で高度に有意である。(5)温感と着衣指数は秋に有意差がみられたが年間を通じて一定の傾向はみられない。(6)生理的条件のうち持病や訴えの多い人は着衣指数が多い傾向がみられる。(7)生活習慣についてはほとんど関連がみられない。

B-89 着衣状態変動の要因について —奈良県庁における実態調査—

奈良女大 水梨サワ子

1. 1966年10月本学会において発表した「着衣状態変動の要因について—女子の場合—」の研究に引き続き男女ともに年間を通じて、着衣状態がどのような要因によって変動しているかを調査し環境としての被服の適正なあり方について検討する。

2. 冷暖房設備のある奈良県庁に勤務する女子職員全員(約260名18~55歳)とランダムサンプリングによる男子職員(約250名21~55歳)を対象として年間を通じて着衣に関するアンケート調査を毎月1回中旬におこない同時に環境条件を測定した。